

青森県立郷土館だより

News from the Aomori Prefectural Museum

通巻166号 平成28年(2016)10月31日 Vol.47 No.2



平成28年11月18日(金)～平成29年1月15日(日)

高度成長時代と呼ばれる昭和30年以降、人々の暮らしは大きく変わりました。その背景のひとつに、家庭用電気製品の急速な普及と発展があります。

この時代、豊かさや便利さを追求する世の中の流れに乗って、炊飯器やトースター、洗濯機といったさまざまな家電の開発と改良が進められました。それが戦前戦後のような単なる「電化」を超えて、「自動化」を目指すものであった点に、この時代の特徴があります。家事労働の自動化を約束する夢の道具は、食事や睡眠といった基本的な生活のいとなみから、娯楽や消費のスタイルまでも変えてゆく力を持っていました。当時の家電には、変わりゆく暮らしのありさまと、人々が理想として描いた生活像が反映されています。

かつてメーカーや消費者が家電製品に向けていた、希望に満ちたまなごしを再発見するきっかけとなれば幸いです。

(学芸員 増田公寧)

☆昭和の家電 写真・エピソード 募集中!!
(～1月15日まで)

◇テレビを囲んでの団らんや電気釜での初めての炊飯など、家電にまつわる写真やエピソード(昭和30～40年代、青森県内の内容とします)を募集しています。写真つきのエピソードをご応募の場合は、**当企画展の無料観覧券をペアで進呈**いたします。もちろん、エピソードだけでも歓迎!

◆氏名、◇生年、◆連絡先(住所・電話)、◇撮影年・場所を記入のうえ、次の宛先まで(◆印の情報は公開しません)

○郵送 〒030-0802 青森市本町2丁目8-14

青森県立郷土館 学芸課「昭和家電パラダイス」係

○メール E-KYODOKAN@pref.aomori.lg.jp

○インターネット投稿 「青森県立郷土館デジタルミュージアム」内「あおり見る知る掲示板」

○持参 青森県立郷土館 1F 総合案内(受付)

不明な点がありましたら、青森県立郷土館017-777-1585までお問い合わせください。

☆記念講演会

「主婦の味方ー洗濯機の歴史」

講師 大西正幸(おおにしまさゆき)氏

生活家電研究家、道具学会理事、博士(工学)
長らく株式会社東芝で家電機器の研究と開発に携わって来た家電のスペシャリスト。テレビ出演、著書『電気洗濯機100年の歴史』『生活家電入門』ほか多数。NHK朝の連続テレビ小説「とと姉ちゃん」では、洗濯機の考証を担当。

日時 12月10日(土)13:30～15:00

場所 当館小ホール

「青森県の電気の普及」

講師 青森県立郷土館主任学芸主査 佐藤良宣

日時 11月19日(土)13:30～15:00

場所 当館小ホール



寒くなってきましたね!
家電を見て心と体を温めませんか。
みなさんのご来場、お待ちしております!

家電パラダイス マスコットキャラクター
スナックン

あれも電化

昭和31年に始まった料理番組は次第に数を増やし、30年代半ばにはテレビ料理ブームが起きた。番組を通じて「家庭料理」は一層拡充されてゆき¹⁾、調理家電に対する注目も高まっていった。卵をゆでるための家電、天ぷらを揚げるための家電、缶詰を開けるための家電、かつお節を削るための家電など、特定の作業に特化した調理家電が求められるよ



▲おかず2品に汁物1品を同時に作ることができる自動式炊飯器（東芝RC-10H+分割内鍋、昭和35年）。素材により火が通る時間が異なるので、使いこなすには工夫も必要だった（『暮らしの手帖』『家の光』などの批評より）。



▲電気フライパン（東芝田んぼ、昭和31年）テールブルグリンにハンドルのついたもの。楽しく卓上で調理ができるとうたう。



▲キッチンロースター（早川KF-657、昭和30年代）上はホットプレート、下はオーブンとして使用できて合理的。ファイnderで焼け具合の確認が可能。機能の分化の一方で、2in1, 3in1などの多機能化も進んだ。



▲テーブルグリル（東芝TG-61、昭和36年）2枚のプレートで、上下から挟んで加熱することも、開いて2種類の料理を作れることもできる。付属の四角い枠を使えば、ケーキも焼けるといふ。ただし「ややホットケーキ式になりますが、味でカバーして下さい」[取説]とのこと。

▶フィッシュグリル（東芝EG-506、昭和37年）通称「さんま焼き器」。長い魚も焼けるロングタイプ。天火式で汚れにくい。



▶電気カン切り（東芝CK-31A、昭和36年）どんな缶でもわずかな数秒で開缶。缶詰の利用機会の増加に呼応して登場。



▲キッチンロースター KE-504（早川、昭和35年）フライパン、ロースター、「コンロ」の3通りに使える「万能型」。



▲電気天火（東芝HGR-81、昭和38年）



▲ホットプレート（松下NF-66、昭和35年）

1) 村瀬敬子2005『冷たいおいしさの誕生』pp.201-204,同2016「高度成長期の料理番組」（国立歴史民俗博物館編『歴博』第196号「高度成長と食生活の変化」pp.2-5）

これも電化

うになった、あるいはメーカーによって需要が演出されていった。

折しも国民の所得が伸び、消費者の経済力に余裕が生まれていたころ。さまざまな道具が電気によって自動化され、労働が家電によって代替されることが生活の豊かさであると考えていた人々は、新しい暮らしへの夢を描きながらこれらの家電を手にしたに違いない。



▲電気酒かん器（東芝SW-601,昭和34年）
45℃から65℃まで好みの温度に温められる。

▼銚子保温器（東芝,昭和30年代）徳利袴。



▶電気ポット（松下NC-33,昭和35年）温度調節機能により、赤ちゃんのミルクから茹で卵、酒かんまでいろいろな使える。



▲「スナック3」（東芝HTS-62,昭和39年）
トースト、ミルク、目玉焼きの3品を同時に調理できる。
一人暮らしの独身男性をイメージして開発された。



▲パーコレーター（東芝PL-2,昭和29年）
下部に設置された小型のコンロで加熱する。

▶オープン式トースター（東芝HTR-61,昭和38年）
日本初のオープン式トースター。ロールパンなども焼くことができるようになった。製造は谷田製作所（現 株式会社タニタ）。



▲「原子力時代を象徴するデザイン」(日立ニュース)と紹介されるミキサー（日立MJ1,昭和30年）。

ミキサー発売の昭和30年には、原子力基本法が成立。日本初の商業用原子力発電所である東海原子力発電所で導入された炭酸ガス冷却炉は「球形」である（着工は昭和35年）。このミキサーは、球形の原子炉をモチーフにしたものか。



▲ゆで卵器（東芝BC-301,昭和34年）
ゆで加減もお好み次第、スイッチひとつで5個まで茹でられる。温泉卵用も（東芝BC-501,昭和37年）▶



▲「ジュースメーカー」（東芝JC-25A,昭和37年）昭和36年発行の『青汁の効用』（遠藤仁郎著）は、ジュースブームの引き金になった。



▲クリームフリーザー（松下MF-7K,昭和30年代）家庭用アイスクリーム製造器。



▲電気なべ（三菱NB-2,昭和30年代）

特別展 刀剣魂

平成28年7月15日（金）～8月28日（日）当館では特別展「刀剣魂（とうけんだましい）」を開催した。

これは近年、マンガやゲーム等の影響で海外や若者の間で再注目され、新しい価値観も派生している日本刀について、主に青森県内の指定文化財を中心に紹介したものである。

今回は、時代や流派毎に貴重刀剣類を紹介する従来型の展示ではなく、初心者にも楽しんでもらえるよう、多角的な展示方法を採用した。つまり、武具や祭祀具、身分表象具、贈答品等の歴史的役割を果たし、神事や民俗芸能、アイヌ文化、近代の農具や調理具製作技法にも影響を与えてきた日本刀の多様な文化や、日本刀の発生史についても触れた。さらに日本刀から生まれたことわざについて、文字情報だけでは理解しにくいため、学芸課職員がわかりやすく再現して解説する時代劇風のビデオを上映したが、お子さん達に大人気であった。

また、ガラスケースの日本刀を視覚だけではなく、体感を通じて理解してもらえよう、真剣を手を持つことができる体験器具を設置し、毎週土曜日には、各専門家による手入れ講座や講演、試し斬り演武等の実演をとまなう無料講座を開催した。毎回定員を越える参加者においていただき、何度かエントランスホールが観覧者で満杯状態と

なった。

アンケートを見ると、いままで当館においてにならなかった県外の方や若い男性、女性の方々がたくさんおいでになられた。当館職員一同、新しいご縁に感謝している。これは近年のブームとともに、当館広報担当が精力的に展開し、一般の方々にもご支援いただいたインターネットによる情報拡散の効果も大きかったのではないだろうか。

また貴重刀剣資料の取り扱いや展示方法についても、実地を通じて多くのことを学ばせていただいた。関係各位に深く感謝するとともに、今後活かしていきたい。

（主任学芸主査 小山隆秀）



平成28年度 土曜セミナー予定（後期）

| 月 日 | テ ー マ | 講 師 |
|--------|---------------------------------|--|
| 10月29日 | 芦崎はどのような砂嘴か？ | G鎌田 耕太郎 |
| 11月5日 | 青森の達人3「だしを知れば料理が変わる！！」 | 特：だしソムリエ 奥村 雅美 |
| 11月12日 | 喫茶店全盛時代を知る ～市民が集い、楽しめる場所とは？～ | G中園 裕 |
| 11月19日 | 青森県の電気の普及 | 佐藤 良宣 |
| 11月26日 | 青森県の風土と文化 | G岩井 康頼 |
| 12月3日 | 幕末の青森商人と『諸家様御用達』 | G江藤 大輔 |
| 12月10日 | 企画展特別講座「主婦の味方ー洗濯機の歴史」 | 特：元東芝家電機器事業本部技師長 道具学会理事・博士（工学） 大西 正幸 |
| 12月17日 | 旧石器から縄文へ ～大平山元遺跡群に関連して～ | G一町田 工 |
| 1月14日 | 観音様を守る人たち | 古川 実 |
| 1月21日 | 土器を読む3 縄文原体 | 中村 哲也 |
| 1月28日 | 氷河時代のほ乳類化石 | 島口 天 |
| 2月4日 | 青森県の交通史2 | 佐藤 良宣 |
| 2月11日 | 白樺派と青森の芸術家たち | 和山 大輔 |
| 2月18日 | 蓑虫山人とゆかりの人々 | 太田原 慶子 |
| 2月25日 | 岩木山信仰 | 小山 隆秀 |
| 3月4日 | 考古学研究者の青森再発見 | G福田 友之 |
| 3月11日 | 黒石の仮想街歩き | G安田 道 |



※休講
12月24、31日
1月7日
3月18、25日

※G: 当館ゲストキュレーター 特: 特別講師

